

佳作

一人一人の良さと成長

和歌山県 和歌山県立古佐田丘中学校三年 木村 華弥

私には十歳年下の弟がいます。弟は少しですが発達がおくれています。周りの子が出来ていても、弟には出来ないことがたくさんあります。私はそんな弟の存在が恥ずかしくてなりません。周りが出来ているのに弟が出来ていないところを見て他の人が何か話しているのを聞くと、姉である私も出来損ないだと言われているようで何より嫌でした。弟なんてうっとうしいだけだと思っていました。しかし、弟に対しての想いが一変する出来事があったのです。

それは、母に連れられて行った弟の保育園の参観でのことでした。参観といっても、弟からは私達の姿が見えない場所での参観でした。私は「どうせ、一人だけ泣いていて先生に抱っこされているんだろ。うな。友達と仲良く遊んでいる姿を見るのはまだま

だ先のことだろう」と考えていました。まず見たのは、自由遊びの時間でした。弟は案の定、先生の近くにすわり、一人で積み木遊びをしていました。そして、しばらくの間積み木を使ってタワーを作っていたのですが、高く積みすぎてタワーが壊れてしまいました。すると弟は皆が笑顔で遊んでいるのに一人だけ大声で泣きだしました。私は顔がどんどん赤くなっていくのが鏡を見なくてもわかりました。予想出来ていたことでも、恥ずかしくて仕方ありませんでした。

そして、次にリトミックを見せてもらうことになりました。歌にあわせて様々な動きをするのですが、弟は正しいポーズになっていなかったリスピードがおそかったりしていました。私は今すぐ家に帰りたおそかったりしていました。私は今すぐ家に帰りたおそかったりしていました。その時ボタンツと大きな音がしました。音のした方を見ると一人の女の子が転んでしまったようで、泣いてしまいました。すると弟が誰よりも先にその子にかけより、

「大丈夫？ いたいのどっかいけー！」
と声をかけていたのです。この瞬間、私は感動で動けなくなってしまうました。まさかあの弟が友達をなぐさめるなんて思いもしていなかったからです。

感動のあまり、涙目になってしまったのを今でも鮮明に覚えています。

私はこの参観により、人にはそれぞれの良さがある、ということと、家族の成長を実感できる感動、というものを知りました。弟の誰よりも友達思いな一面を知ったとき、今まで見ようとすらしていなかった弟の良いところが次々に見えてきました。今では弟を誇りに思っています。そして、弟のおかげで一人一人に違った良さがあるということにも気付くことが出来ました。そして成長によって得られる感動はこれから何回もあるだろうと思います。弟だけでなく、私自身の成長による感動もあるはずで、その一つ一つの思い出を心の中にしまい、その嬉しさや感動を忘れないようにしていきたいです。